

令和元年11月21日

西部農林振興センター 益田事務所 農業普及部

|            |  |
|------------|--|
| <b>標 題</b> | <b>「需要に応じた米づくり研修会」開催！</b><br><b>～多収穫栽培と低コスト栽培の組み合わせで所得増加へ～</b> |
|------------|--|

(ダイジェスト)

11月13日と14日に、JAしまね西いわみ地区本部と石西地域農林振興協議会の共催で「需要に応じた米づくり研修会」を開催しました。昨年度開催した「きぬむすめ推進大会」（平成30年11月22日付け普及情報No.23参照）の内容に加え、密苗低コスト栽培の紹介、「つや姫」や新たな多収穫品種の実証試験の報告の他、今年産から「きぬむすめ」の作付けを拡大した生産者の実践報告など幅広い内容となりました。

近年、主食用米の消費は減少傾向にあり、全国的に米余りが問題視されているなか、島根県産「きぬむすめ」の需要は高く、11,600tの供給不足となっており、昨年よりもさらに需給ギャップが拡大しています（昨年度「きぬむすめ」7,000tの供給不足）。

一方品質面では、近年の天候不順により西いわみ管内（特に益田市平坦部）の1等米比率が低下しているなか、「きぬむすめ」はその影響をほとんど受けず高位で安定的な品質を維持しています。

こうしたことから、11月13日と14日に、西いわみ管内の生産者を対象として、「需要に応じた米づくり研修会」が益田市と津和野町、吉賀町の3会場で開催され、関係者含め約140名が参加しました。

JAしまね西いわみ地区本部から今年度の作柄概況と西いわみ管内の各品種の状況、3ヶ年計画による今後の目標等の説明があり、普及部からは「きぬむすめ」の多収穫栽培を行うと「コシヒカリ」よりも経済的に優位であることを実証ほのデータを元に説明しました。その他、コスト削減の観点から密苗の試験結果や、その他の実証試験の紹介などを行いました。

また、実践報告では今年産から「きぬむすめ」の栽培面積を増やした生産者の説明があり、「きぬむすめ」の安定的な品質や、他品種に比べ収量が高く儲かり、密苗と組み合わせることでさらに経営的にメリットがあるという生の声が聞けました。

普及部では、今後も「きぬむすめ」や「つや姫」の作付け拡大の推進と生産者の所得増加に向けた活動を継続して行っていきます。

